

常磐高等学校 令和4年度 学校重点目標並びに学校自己評価表

(計画段階 ・ 実施段階)

学 校 運 営 計 画					評価(3月)		
学校運営方針	知育、徳育、体育の三位一体を基盤として、至誠の心を育み、自由清らかな気風で、心豊かな行動力のある社会有為の人材を養成する。						
昨年度の成果と課題	本 年 度 重 点 目 標			具 体 的 目 標			
授業評価アンケートを継続し授業改善を更にに行い、ICT教育としてiPadを導入、わかる授業と学習の定着を行った。生徒会活動を活性化し内容が着実に向上した。新しいキャリアプランを導入して2年目、さらに細分化が必要。今後も生徒会活動を中心に校内外でのマナー遵守や自主的な学習活動の定着を目指す。そのためにも各分掌の横断的で組織的な取り組みの強化と教職員が全てにおいて率先垂範して行動していかなければならない。	基本的生活習慣を確立し、ICT機器を活用し主体的な学習によって確かな学力を定着させる。			家庭学習を定着させ、「予習、授業、復習(課題)」の学習サイクルを確立させる。			
				新高等学校学習指導要領の「主体的、対話的で深い学び」を実践する。			
				教育活動全般を通して、「耐性・自主性・課題解決能力」を育成する。			
				「規範意識」を高めると共に相手の立場に立った言動ができる生徒を育成する。			
	質実剛健の校訓を尊重し、規範意識を高め豊かな人間性を育む。			大学入学共通テストを視野に授業改革を推進する。			
				生徒個々のデータを集約・蓄積して、「常磐スタイル」の進路指導を確立する。			
	キャリア教育プランを推進し継続的、組織的な指導により希望進路の実現を図る。			学校内外で「自他の尊重」意識して、良好な人間関係の構築に努める。			
				互いに「思いやりの心」を持って学校生活が送れるよう全教育活動で人権教育を実践する。			
自他の安全を確保する指導を充実し、心身ともに健全な生徒を育てる。							
	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策			評価(3月)		次年度の主な課題
学習指導	教科指導力の向上	・授業規律を第一に考え「わかる授業」「伸びる授業」のために年間計画・指導案をUD化し授業改革を促進する。			A	A	生徒1人1台端末が3学年揃うので、教員側もICT機器を利用し生徒がわかる授業を行えるよう研修などを積み授業改善に努める。また、学習の定着をはかるため各教科において家庭学習ができるような宿題や小テストを徹底させる必要がある。授業評価アンケートの結果から授業を改善する。出席率向上のためにも「学校が楽しい」と思わせるような授業づくりをしていく。
		・定期的な授業評価アンケートで授業改善に努め、生徒の「授業満足度」向上を目指す。			A		
	学習意欲の向上	・出席率の向上が学習意欲の向上に繋がることを認識させ、各学年「月間出席率」99%以上を目指す。			C	B	
		・家庭学習時間を確保する手立て(宿題・小テスト等)を徹底させ、学習習慣の改善を図る。			B		
生徒指導	規範意識の向上	・登下校指導を校内外において計画的に行い、マナー指導を行う。			B	B	規範意識の向上については不十分な点が残った。特に登下校時のマナーについては継続した指導が必要であり、次年度は全教員が共通した指導を徹底して実践できるよう、個々人の意識を今以上に向上させていきたい。また生徒会については積極的な活動が見られるようになったが、まだ各種委員会の活動が弱いため、次年度は四役と各種委員会を連携させた主体的な活動を活性化していきたい。
		・清掃や整頓など、教員が率先した態度で生徒と接し健全な学校生活を構築する。			A		
	生徒会活動の活性化	・学校生活は自治的な生活の場であると理解させ、社会性を身に付け自覚のある学校生活の確立を目指す。			A	A	
		・生徒会や委員会活動を通じ、生徒が互いの理解を深め自発的行動をとる事ができるよう援助を行う。			A		
進路指導	進路学習の充実	・指導を徹底し、各検定において上位級合格者の増加を目指す。			A	A	進路決定のための学力と意識向上プログラムの構築と、その意図の共有の徹底を図る。また、スターサブリやエナジードといったICTを活用したツールをより効率的で計画的に実行するために、先生方への更なる研修を行う。進路指導部が組織的に運営できるように会議を定期的に行い、業務状況の確認を行う。3年を見通した進路指導を行うために、各学年と協力する。
		・生徒自身の進路意識の向上を図り、ミスマッチのない進路計画を構築させる。			B		
	希望進路の実現	・各生徒の状況を的確に把握し、授業の充実を図ることで基礎学力の定着と意欲の促進を目指す。			A	A	
		・模擬試験結果分析会の徹底を図り、受験校に対応した特別編成授業を実施し、国公立大学20名以上の合格を目指す。			B		
その他	人権教育の充実	・外部委員を含む「いじめ防止対策委員会」を充実させ、いじめの未然防止を徹底する。			A	A	いじめ撲滅と特設授業の更なる充実を目指すことを目標とする。このために委員会を頻繁に開催してそれを研修等にもつなげることで、教職員全体の更なる人権意識と知識の向上を図り、生徒に還元したい。オープンスクール、私塾対象説明会の参加者は昨年よりも増加し、新たに保護者対象説明会も実施することができた。学校案内・ホームページなどをさらに充実させて、受検者増・入学者増につなげていきたい。
		・スクールカウンセラーとの連携による「いじめ防止教室」「いじめアンケート」等でいじめを許さない意識を高める。			A		
	広報活動の充実	・中学校や私塾との連携を強化し、「オープンスクール参加者」800名を目指す。			A	B	
		・学校案内、学校紹介DVDやプレゼンテーションを質的に向上させて、「推薦入試受験生」100名、定員確保を目指す。			B		